

平成26年第5回高山市議会定例会 一 般 質 問

◎一般質問の順序

月 日	議 員 名	会 派 名	ページ
12月8日(月)	1. 岩垣和彦 議員	市民ネット	1
	2. 小井戸真人 議員	市民ネット	2
	3. 倉田博之 議員	新風会	4
	4. 車戸明良 議員	新風会	5
	5. 中田清介 議員	新風会	7
	6. 藤江久子 議員	新風会	9
12月9日(火)	1. 谷澤政司 議員	新風会	11
	2. 松山篤夫 議員	無党派	12
	3. 若山加代子 議員	無党派	13
	4. 山腰恵一 議員	高山市議会公明党	14
	5. 中箴博之 議員	高山市議会公明党	15
12月10日(水)	1. 松本紀史 議員	高山市政クラブ	16
	2. 杉本健三 議員	高山市政クラブ	17

◎質問時間等については以下のとおりです。

議員の質問のみで40分。質問回数は制限なし。

※ 反問に要した質問及び答弁の時間は持ち時間に含めない。

◎一般質問の内容は次のとおり通告されています。

【岩 垣 和 彦 議員】

1. 住宅政策の取り組みについて

(1) 地域居住に繋がる施策の方向性

- ①在宅介護の需要が増加する中、高齢者等住宅改造費助成を見直す考えは
- ②定住促進のため、新築・増改築を誘導する中で課題となっているものは何か
- ③空き家対策のための民間会社の活用は

(2) 環境や安全対策

- ①環境対策（住宅エコ改修）についての考えは
- ②地震等に備えるための耐震化の展開方法は

(3) 市営住宅と民間賃貸住宅との関係

- ①市営住宅の空室率の状況は
- ②民間賃貸住宅を市営住宅の補完策として活用する考えはないか

(4) 経済活性化のための総合的な展開

- ①住宅マスタープランにおいて「住生活基本計画」の内容がどう反映されているのか
- ②住宅政策は、各種補助金の整理及び固定資産税の軽減策等も含めて戦略的に進める必要はないか

2. 災害時における医療体制の支援について

(1) 地域災害拠点病院への対応

- ①市内におけるDMAT（災害派遣医療チーム）の出動状況と支援体制の現状は
- ②災害時の医療支援についての市の考えは

【小井戸真人 議員】

1. 平成27年度予算編成方針について

(1) 平成27年度における歳入の見込み

- ①合併特例期間終了後となる平成27年度の地方交付税の見通しは
- ②消費税の増等による高山市の景気動向が注目されるが、来年度の市税収入の見通しは
- ③法人市民税法人税割の税率引き下げの影響は

(2) 平成27年度予算編成方針

- ①平成27年度予算編成方針の中で、「選択と集中により事務事業の見直しを行うとともに、歳出総額の抑制と歳入の適正な確保に努める」とされているが、第八次総合計画初年度の予算編成における選択と集中の課題は

2. 子育て支援について

(1) 子ども・子育て支援新制度

- ①子ども・子育て支援新制度によってどういった面に影響があり、どういった効果がもたらされるのか
- ②消費税10%が先送りされることによって、子ども・子育て支援新制度にはどのような影響があるのか
- ③私立保育所支援の充実を求める要望に対する考えは
- ④幼稚園は「新制度で運営（移行）」か「現行の制度で運営」かを選択することとされているが、高山市内の幼稚園の方針は
- ⑤保育士の処遇改善事業の今後はどのような対応になるのか

(2) 児童発達支援事業の移行

- ①高山市が直営で実施している児童発達支援事業を指定管理者に移行しようとする目的は
- ②現在、実施している児童発達支援事業の評価は
- ③利用者の声を十分に聴く必要があるのではないかと

3. 生活困窮者の支援について

(1) 生活困窮者自立支援制度

- ①自立相談支援事業、住居確保給付金、被保護者就労支援事業は必須事業とされているが、どのように対応されるのか
- ②任意事業の実施についてどのように考えているのか

4. 江名子川の治水対策について

(1) 江名子河川改修計画案

- ①県から示された江名子河川改修計画案の内容は
- ②江名子川上流区域における調整池整備の考えは

【倉 田 博 之 議員】

1. 市民の自主的な健康増進活動を誘導する環境整備について

(1) 環境整備の必要性

- ①市民が自主的に健康づくりに取り組む方向に誘導していく本市の取り組みは
- ②市民が進んで健康づくりに取り組む動機創出として「健康ポイント制度」を導入すべきではないか
- ③水中運動機能確保に向けた検討の進捗状況は

2. 補装具扶助制度の対象範囲拡大について

(1) 人工内耳装用者への支援

- ①人工内耳が補装具扶助制度における補装具の対象になっていないのはなぜか
- ②人工内耳を、市単独でも補装具扶助制度における補装具の対象とすべきではないか

【車 戸 明 良 議員】

1. 高地トレーニングについて

(1) 飛騨御嶽高原高地トレーニング

- ①東京オリンピックに向けた国の施策の方向性と最近の利用状況及びその選手・チームの成績は
- ②9月に発生した御嶽噴火の影響とその後の対応策は
- ③海外の組織やチームへのPRとその実績・成果は
- ④施設の整備状況と今後の計画は

(2) 乗鞍を高地トレーニングエリアに

- ①乗鞍スカイライン・畳平（鶴ヶ池）周辺は御嶽高トレエリアを補完する国内最適地に挙げられるが、市の考えは
- ②この活用は地域振興策としても期待でき、御嶽高トレエリアの利用者増も期待できるが、市の考えは
- ③国内外のトップアスリートが利用する場合の課題と対応策は

2. 乗鞍の自然を活かした地域創生について

(1) 登山道の整備による観光振興

- ①昔の登山道を整備して乗鞍の自然を享受してもらえる観光振興策は
- ②大黒岳～桔梗ヶ原、バス停の整備による観光振興策は
- ③土俵ヶ原にバス停を設置し、それをベースにした十石峠～平湯大滝、又は白骨ルートによる観光振興策は
- ④五色ヶ原～赤川新道～五ノ池～畳平登山道の整備による観光振興策(ガイドツアー)は

(2) 乗鞍岳山頂付近の遊歩道・登山道の整備

- ①肩の小屋～剣ヶ峰の登山道利用状況及び畳平～五ノ池ルートの指定ガイド付きツアーの実施と今後の展開は
- ②畳平周辺の立入禁止区域における新たな登山道・遊歩道（恵比寿岳、大丹生ヶ池コースなど）の整備は

- ③これまで挙げた登山道・遊歩道を活用したガイド付きトレッキングツアー（フランスのシャモニー型）による観光振興策は
- ④（１）（２）の課題について地方創生法を活かし乗鞍特区など地方振興の可能性は

3. クマ対策について

（１）クマ被害対策と課題・取り組み

- ①被害状況と課題は
- ②ツキノワグマの生息数（個体数）管理は（今年の捕獲数基準と現状）
- ③今年の被害を踏まえた防除対策は
- ④生息環境（森林環境）の保全の施策は

【中 田 清 介 議員】

1. 卸・小売業を取り巻く経営環境の変化について

(1) 平成19年から24年までの指標の変化への対応

- ①小売り業の指標分析から「売り場面積」、「販売額」、「従業者数」が急激に落ち込んでいる姿が見えてくる。今後の雇用や就業構造等への影響について市はどのように捉えているのか
- ②大型店対策として売り場面積の総量規制の必要性は指摘されてきたが、実現できる手立てはなかった。既存店が淘汰される中で今後の小売商業の振興についてはどのような対応が可能なのか
- ③中心市街地活性化計画の見直しでは中心商店街の位置づけはどうか
- ④全国的に就業構造は1次・2次産業から3次産業へのシフトが続いている。大型店の占める割合が増え続ける中ではさらに既存店の淘汰も考えられる。新たな雇用の受け皿となれる分野はどこに求められるのか
- ⑤卸機能の変化についても大きな転換点であると受け止める。今後問屋町の卸団地、卸市場の問題については用地活用、建て替え、機能強化等の面で八次総の中で具体的な対応ができるのか
- ⑥政策シミュレーション分析等による戦略的な産業政策の立案が必要な時なのではないか

2. 地域経済構造分析について

(1) 時代の変化を見据えた産業政策の策定

- ①行政の産業政策の視点は地域内で効果的に資金を滞留・循環させ、結果として税収増に結び付けることにある。まずは地域の経済循環を踏まえた産業構造の把握が必要なのではないか
- ②地域経済循環分析に必要な産業連関表の作成に踏み出すべきではないか
- ③今まで行政に足りなかった点は政策立案に際しての経済効果のシミュレーションではないか
- ④企業誘致から意欲ある中小企業育成への転換を政策の柱にすることも考えられるのではないか

3. 観光資源を生かす地域戦略について

(1) インバウンド観光の受け皿としてのDMO

(Destination Management Organization)

- ①欧州などの観光地では「観光地域の戦略策定、マーケティング、着地型旅行商品を一元的に行うビジネス組織」(DMO)が導入されている。外国人の関心が高い観光地イメージと体験したいことを念頭に置き、そのニーズに合った企画でリピーターを増やす対応も必要ではないか

【藤 江 久 子 議員】

1. 市民協働のまちづくりについて

(1) 市民意見交換会の意見

- ①「移住してきてから、町内会に入れて欲しい。とお願いしたが入れてもらえなかった。」という意見があったが、市民協働のまちづくりが始まればどうなるのか。行政としての考え方、対処の仕方は
- ②「募金や頻繁な回覧要請が町内会に重くのしかかっている。行政は町内会に甘えているのではないか。」との意見があるが、市民と行政の協働ということをどう考えるのか。また、今後はどう改善するのか
- ③「協働のまちづくりでは、一部の固定化された役員が運営を支配するようなことがないのか。」という意見に対する考え方は

(2) 多様な意見が反映されるまちづくり

- ①次々と立ち上がる自主運営組織は、女性や若者の意見を反映していくことができるのか
- ②花里地区・一之宮地区のモデル事業はどう活かされているのか

(3) 町内会に求められる機能と役割

- ①協働のまちづくりと町内会との役割分担の考え方は

2. 公務員の在り方について

(1) 職員の適正化計画

- ①職員の年齢構成と再任用制度から考える今後の適正化計画は
- ②今後、人口減少が進む中、人件費に対する市民の負担割合は増えていくが、人件費についての考え方は

(2) 人事評価と職員像

- ①目標管理はできているのか。人事評価制度は機能しているのか
- ②市役所そのものに課題解決能力はあるのか

③これから求められる職員像とは・・・過疎地域への出向や現場で汗を流すという仕事はできないか

(3) 職員基本条例

①市の職員としての責務を条例化できないか

(4) 職員の能力を存分に活かすには

①トップダウンで物事を進めようとする、自由度が奪われ萎縮した仕事しかできなくなる。「創造」する能力をいかにして育むのか

【谷 澤 政 司 議員】

1. 障がい者福祉について

(1) 障がい者福祉の現状と課題

- ①法改正で障がい者福祉施策はどのように変わったのか
- ②障がい者福祉施策の現状と課題は
- ③社会福祉法人飛騨慈光会が進めている施設整備計画に対する市の支援策と飛騨圏域の連携は

2. 大島ダムについて

(1) 市民の災害からの安全確保

- ①大八賀川下流域の大新町、下三福寺町、三福寺町の護岸整備が未整備である。今後のダム整備計画の見通しは

3. 住宅エコ推進事業について

(1) 国の取り組みと市の方向性

- ①住宅エコ推進に対するこれまでの取り組みとその効果は
- ②事業復活を求める市民の声をどう捉えているか
- ③住宅エコ推進事業に対する市の考えは

【松 山 篤 夫 議員】

1. 観光戦略について

(1) 海外市場のマーケティング戦略

- ①観光情報サイトの活用策は
- ②コルマール観光展において日本は名誉招待国であったが、この好条件をどう活かしていくのか
- ③ヨーロッパへの高山の郷土料理・和菓子等の紹介・販売推進策は
- ④フードツーリズムを推進すべきでは
- ⑤古墳や秋葉様など観光資源と歴史の一体化による「物語」を仕立てて誘客する戦略を展開すべきでは
- ⑥観光戦略の見直しをすべきでは

2. 高齢者対策について

(1) 高齢者の生きがいつくりと社会参加

- ①「60歳代を高齢者と言わない たかやま」を宣言したらどうか
- ②「生涯現役応援センター」の設置についての考えは

3. 自然エネルギー政策について

(1) 自然エネルギー導入へのロードマップ

- ①地域の特性の把握とどのような特徴において「自然エネルギー利用日本一」のまちならんとするのか。その方向性とビジョンは
- ②観光都市として太陽光パネルの景観についてどう考えるか

【若山加代子 議員】

1. 子育て支援について

(1) 子ども・子育て新制度に基づく保育の実施

- ① 来年度から新制度に基づく保育の実施となる。市の保育に対する考えは、これまでと変わらないのか
- ② 条例制定が必要となるが、遅れている理由は
- ③ 保育園への入園手続きなどについて、保護者は十分に理解しているのか
- ④ 保育所を運営する社会福祉法人からの要望にどう応えるのか

2. 鳥獣被害対策について

(1) クマの被害状況と今後の対策

- ① クマの目撃が増えている状況とこれまで取られた対策は
- ② クマが人里に近づかないようにする対策に力を入れる必要はないか

(2) 鳥獣の捕獲状況と処分

- ① 鳥獣の捕獲状況とその処分方法は
- ② 捕獲した鳥獣の処分についての支援の考えは

3. ごみ減量と新しい活用方法について

(1) ごみ減量とごみシール制

- ① ごみ処理基本計画におけるごみシール制の見直しの検討に対する市民の意見は
- ② ごみ減量のための取り組みは

(2) 新しい活用方法

- ① 生ごみを原料にした発電を検討できないか

【山 腰 恵 一 議員】

1. 高齢者福祉施策について

(1) 認知症対策

- ①近年の推移と今後の予測をどう分析されているか
- ②早期発見、早期治療のための簡易チェックシステムの導入を
- ③ケアパス作成の推進状況は
- ④サポーター養成講座の現状と取り組みは
- ⑤介護マーク普及促進へどう取り組んでいるか
- ⑥徘徊高齢者等探索端末システムの貸与状況と効果は
- ⑦徘徊高齢者等SOSネットワークの構築を
- ⑧家族の負担軽減を図るサポート体制の取り組みは
- ⑨成年後見制度の推進への取り組みは
- ⑩認知症対策推進における今後の課題はなにか

2. 外出支援について

(1) 自家用福祉有償運送

- ①高山地域における利用者登録状況と利用状況は
- ②1NPO法人が来年3月で止められるが、利用者の影響について、どう捉えているか
- ③利用者の受け皿を、どう検討されているか

【中 箴 博 之 議員】

1. 公共施設のあり方について

(1) 施設の複合化・共有化

- ①民間も含めた施設複合化の考えは
- ②近隣市村や県の施設との共有化の考えは

(2) 学校施設の複合化

- ①西小学校と総和保育園の合築の評価は
- ②学校を核とした地域づくりの考えは

2. 福祉医療費助成について

(1) 療養給付費負担金

- ①減額調整の実情は
- ②市として対応策は考えられないのか
- ③県レベルでの議論はないのか

3. 地域おこし協力員等について

(1) 成果の検証と今後の方向性

- ①受入れの成果をどう捉えているのか
- ②H27年度以降の方針は
- ③協働のまちづくりに外部からの視点は欠かせないのでは

【松 本 紀 史 議員】

1. 子どもや若者への「おしまぬ支援策」の充実について

(1) サッカー専用競技場の設置促進

①将来の子ども達のために、サッカー専用競技場の整備に取り組む考えはあるのか

(2) 雪国での伝統的なスキー教育

①中学校でスキー学習をクラブ活動や部活動として位置付けている学校はいくつあるのか

②小中学校でのスキー学習については、教育の観点からどう位置づけているのか

③小中学生のスキー学習への支援強化についてどう考えるのか

(3) 若者定住の促進

①若者定住促進の重要性、必要性についてはどう考えているのか

②若者定住促進策について、第八次総合計画の策定も含めどう検討を進められてきたか

③国の地方創生の取り組みの中でも「しごとの創生」「ひとの創生」と若者の地方定住を重点課題としてきているが、このことを踏まえて、若者定住に向け今後どう取り組まれるのか

2. 鳥獣被害対策について

(1) クマの出没と山林の荒廃対策

①クマ出没に関連する荒廃した山林の管理と対策をどのように考えるのか

(2) 狩猟者の育成

①狩猟者の高齢化が進んでいるが後継者育成をどのようにすすめるのか

【杉 本 健 三 議員】

1. 市政クラブ提出、平成27年度の施策と予算要望について

(1) 企画管理部、財務部

- ①行政改革の更なる推進を
- ②支所機能の充実を
- ③過疎地域活性化施策の推進を
- ④入札制度(不落対策)の検討および地元発注への更なる配慮を

(2) 福祉部、市民保健部

- ①児童・高齢者・障がい者福祉サービスと支援体制の充実(基幹相談支援センター)を
- ②子育て環境の整備と支援策の充実(児童発達支援センター)を
- ③未婚者への結婚支援を
- ④在宅介護の充実を
- ⑤保健予防事業の更なる推進を

(3) 商工観光部、農政部

- ①全市にわたるあらたな観光ビジョンの策定を
- ②商店街振興施策の推進を
- ③農業用排水路及び農道整備の改良促進を
- ④森林資源活用と清流確保の推進を
- ⑤間伐材利用促進事業の推進を

(4) 教育委員会、市民活動部

- ①学校施設の大規模改修の実施を
- ②学校給食での地元産食材の拡充推進を
- ③地域伝統工芸、地域伝統芸能の後継者育成推進を
- ④市内全域での文化芸術の推進を
- ⑤協働のまちづくりの全地域の推進を

(5) 基盤整備部、環境政策部

- ①橋梁整備計画策定と整備促進を
- ②除雪対策を
- ③自然エネルギー対策の推進を
- ④8月17日の豪雨災害による道路、用排水路等の早期復旧を

(6) 危機管理室、消防

- ①災害に強いまちづくりの推進を
- ②消防と危機管理室との連携強化を

(7) 水道部

- ①上下水道管の耐震化整備促進を